

みんなのた場

サ一フル 仲問 99

北上町女川法印神楽保存会

地域の繁栄願う舞 伝え続けていく情熱

法印(修験者)が伝えた

神楽である法印神楽は、細かい部分に地域の違いが出ています。北上町女川法印神楽保存会(今野三千雄会長)は、市の指定民俗文化財である女川法印神楽を演じて地域内外に紹介することにも、後世への伝承活動に取り組んでいます。

同神楽は「初矢」「両天」「国譲」「獅子」等全28番で構成されており、神々が地球を固めて万物を創造することを題材にした演目等もあります。春は豊作祈願、秋は収穫への感謝を込めて舞い



▲舞台の一場面。勇壮な舞が地域を活気付けます。



▲北上町女川法印神楽保存会の皆さん

ます。

全体で6、7時間という長時間にわたるため、練習は欠かせません。現在は20代から70代まで地域の幅広い年代のメンバー10人で活動しており、仕事が終わった夜に集会所に集まって練習を重ねています。

明治以前は女川の神職が志津川地方の神職たちと「羽黒派系」として舞ってきたものを、氏子たちに指導したものです。その後、神楽団が結成され、脈々と受け継がれてきました。現在の形の女川法印神楽

保存会は、今からちょうど50年前の昭和42年に発足しました。当初は会員数が少なく、苦勞することも多くありましたが、伝統を守りたいという情熱で今まで受け継がれています。釜谷地区や雄勝地区等、近隣の神楽保存会とも深い交流があり、人手が足りないときは協力しながら、互いに学びあう活動を続けてきました。

現在、保存会は釣石神社をはじめとする地区内のみならず、南三陸町といった市外の催しにも精力的に出演しています。東日本大震災後は東京都の明治神宮や島根県の出雲大社等の大きな舞台に立つ等、活動の幅を広げてきました。今野会長(73)は「私自身も若いころ、先人たちから舞を教わってきました。それを若い世代に受け継ぎながら、活動を続けていくことに尽力していきたいです」と話していました。

スポットライト

伝統あるコンクールで日本一

釜小音楽部の 打楽器六重奏



▶昨年10月の東北大会では、最優秀賞に輝きました。

1月29日(日)に東京都内で開かれた「第64回TBS子ども音楽コンクール」の最終選考会で、釜小学校の特別クラブ音楽部が小学校重奏の部において、全国でも優秀な学校に贈られる「文部科学大臣賞」に輝きました。宮城県代表校の受賞は平成16年以来で、石巻地方では初めてです。市内の中学校や高校から楽器を借りたり、県外の支援団体からの寄贈を受けて練習を重ねてきた子どもたちに、各方面から称賛の声が上がっています。

昭和28年に始まった歴史ある同コンクールは、小中学校の合唱、重奏、管楽合奏等、各6部門で構成さ

れています。本年度は全国の1649校から合計で約4万8千人が出場しました。

打楽器六重奏の部で釜小特別クラブ音楽部は、昨年9月の宮城県地区大会で優秀賞、10月の東北大会では最優秀賞を獲得し、録音した音源をもとに審査する全国大会に進出しました。その結果、全国7ブロックの代表校の中でも最高賞に選ばれました。

釜小のメンバーは、6年生の大和優月さん、三浦淳寛さん、伊藤真菜さん、



▲受賞を喜ぶ釜小特別クラブ音楽部の皆さん

4年生の狩野らんさん、今野美久さん、阿部モアさんの6人です。結果を聞いて「まさか日本一になれるなんて思っていませんでした」と口々に語り、喜びを分かち合っていました。

指導に当たってきた顧問の藤坂雄一教諭は「地域や保護者、支援者の皆さんの支えと理解があって取り組める活動です。子どもたちにはこれからも人とのつながりを大切にして、豊かな心で演奏してほしいです」と話し、さらなる成長に期待を込めていました。

健康コラム 石巻市立病院

第23回 動悸のお話 石巻市立病院 内科医長 二瓶 太郎

循環器内科の外来でよく耳にする症状として、動悸があります。一口に動悸と言っても、よく聞くと患者さんによって訴えはさまざまです。「トカトカする」、「脈が途切れる、飛ぶ」、「突然ドクッとなる」、「ハカハカして息がきれる」等が比較的多い症状です。

動悸の出始めや終わり方、頻度は大切な情報です。突然始まっている時点でぱったり落ち着くもの、いつの間にか始まって気づいたら規則正しい普通の脈に戻っているもの、運動したときにより強く感じるもの…問診で頂いた情報を参考に、血液検査、心電図や胸部X線写真等の検査を使って原因を調べます。動悸が続いているときの心電図は診断をつける上でとても大切です。受診時に動悸が落ち着いている方には24時間心電図等をお勧めしています。検査の結果、予想通り不整脈が原因のこともありますし、しばしば貧血や狭心症等他の病気が隠れていることもあります。

原因が病的なものであれば診断に基づいたお薬や治療を行うことで、症状がよくなってより充実した生活を送っていただける患者さんもたくさんいらっしゃいます。「年のせい」と決めつけず、かかりつけの医療機関や当院で気軽に相談してみてください。

石巻市立病院 <http://ishinomaki-city-hospital.jp>

◇投稿募集
皆さんからの投稿をお待ちしています。テーマに沿ったあなたのお話をお寄せください。
テーマ 「ありがとう」
日常生活の中で、皆さんの「ありがとう」に関する逸話(エピソード)をお聞かせください。
字数 400字以内
投稿方法 住所、氏名、年齢、電話番号を明記し郵送またはEメールで秘書広報課までにお送りください。掲載の場合はペンネームを可能としますので、ペンネーム希望の場合はその旨明記してください。
注意事項 公序良俗に反するもの等やスペースの関係上、投稿いただいたものを掲載できるものではありません。また、字数等の関係で内容を調整させていただくことがあります。
☎ 秘書広報課(内線4023) ☎986-8501(住所不要) ✉ ispubinfo@city.ishinomaki.lg.jp

まちの話題



雄勝地区

1月16日(月)
雄勝診療所
雄勝歯科診療所

安心の拠点が開所

これまで仮施設で診察等を行ってきた雄勝診療所と雄勝歯科診療所が高台の造成地に移転新築され、開所式が行われました。地域の住民代表も出席し、新しい医療拠点の完成をテープカット等で祝いました。建物は木造平屋建てで東側が医科、西側が歯科の各診療室となっています。市立病院や石巻赤十字病院等と連携しながら、地域で暮らす皆さんを支えていきます。



桃生地区

2月5日(日)
桃生農業者トレーニングセンター

4種目の戦いで熱いプレー

スポーツを通して地域の輪を広げようと、桃生地区スポーツ交流大会が開かれました。野球、空手等の地区内のスポーツ少年団5団体から団員、保護者の皆さん約120人が参加し、大縄跳び、キンボール、ぐるぐる棒ダッシュ、綱引きの4種目を楽しみながらプレーしました。各チームは勝利を目指して意地をぶつけ合いながらも、最後は笑顔で健闘をたてました。



河北地区

2月5日(日)
長面・大杉神社

顔にすず塗り幸福願う 伝統行事アンバサン

顔にすずを塗って無病息災や大漁豊作等を願う伝統行事「アンバサン」が行われました。アンバ(安波)は漁村で信仰される神で、安波山とも呼ばれている大杉神社では300年以上の歴史があるお祭りです。今年も氏子や元住民等約40人が集まり、宮司から大根につけたすずを額や頬に塗りつけてもらいました。次々に黒い顔になり、境内には笑い声と笑顔が広がりました。



河南地区

2月5日(日)
広淵小学校講堂

綱引きと縄跳びで勝負 河南地区駐在所杯

第33回河南地区駐在所杯争奪綱引き・縄跳び大会が開かれ、地区内のスポーツ少年団や保護者の皆さん等約200人が参加しました。体力増進と健全育成を目的とした行事で、今回も石巻工業高校硬式野球部員が運営に協力しました。綱引きは1チーム10人、縄跳びは団体戦の長縄跳びのほか、個人戦の持久跳び等が行われ、会場には子どもたちの元気な掛け声や声援が響きました。



牡鹿地区

1月19日(木)
東京都内

自然生かして地域活性 あじ島冒険楽校の活動評価

観光振興につながる活動をたたえる「JTB交流文化賞」の組織・団体部門で「あじ島冒険楽校」が優秀賞に選ばれました。あじ島冒険楽校では、網地島の皆さんが「先生」となって、夏休みに各地から参加した子どもたちと多彩な体験学習で交流しています。表彰式に出席した奥田和慶楽校長は「これからも笑顔のあふれる活動を続けていきたいです」と語っていました。



北上地区

1月22日(日)
橋浦字大須

無病息災を願って 迫力の獅子舞

愛宕神社の春祈禱(祈年祭)で、地域の皆さんが獅子舞を奉納しました。獅子舞は、大須上行政区と大須下行政区の合わせて約100世帯を回り、厄除けと無病息災を願いました。沿道には、多くの人が並び、とくに子どもたちはお菓子を配られるのを楽しみに獅子舞が登場するのを待っていました。一方で、小さな子どもは舞の迫力に驚いたり、怖くて泣いてしまう光景も見られました。



石巻地区

2月5日(日)
石巻駅前

おいしい石巻産 カキをPR

おいしい地元産のカキを市民の皆さんに食べてもらおうと、「第2回漁協祭り石巻駅前かき横丁」が開かれました。この祭りは全国屈指のカキ出荷量を誇る宮城県の中でも一大生産地である石巻産の消費拡大を目的に、昨年始まりました。浜の香りが漂う会場では、焼きカキ、カキ汁等が無料で提供されたほか、カキごはんや殻付きカキの販売も行われ、2400セットが全てなくなるほど大人気でした。



石巻地区

1月19日(木)
石巻港

教室は大海原 宮城丸が出港

県海洋総合実習船「宮城丸」で航海技術等を学ぶ宮城水産高校の生徒たちの乗船式が行われました。本年度第3次となる航海には2年生等33人が乗り込み、3月中旬までハワイ南西海域等での実習に臨んでいます。乗船式には全校生徒や保護者が出席し、実習生代表は「実り多い2カ月間となるよう頑張っ、仲間と共に成長して戻ってきます」と決意を語りました。